資料５

金子構成員資料

少子化指標としての出生率について

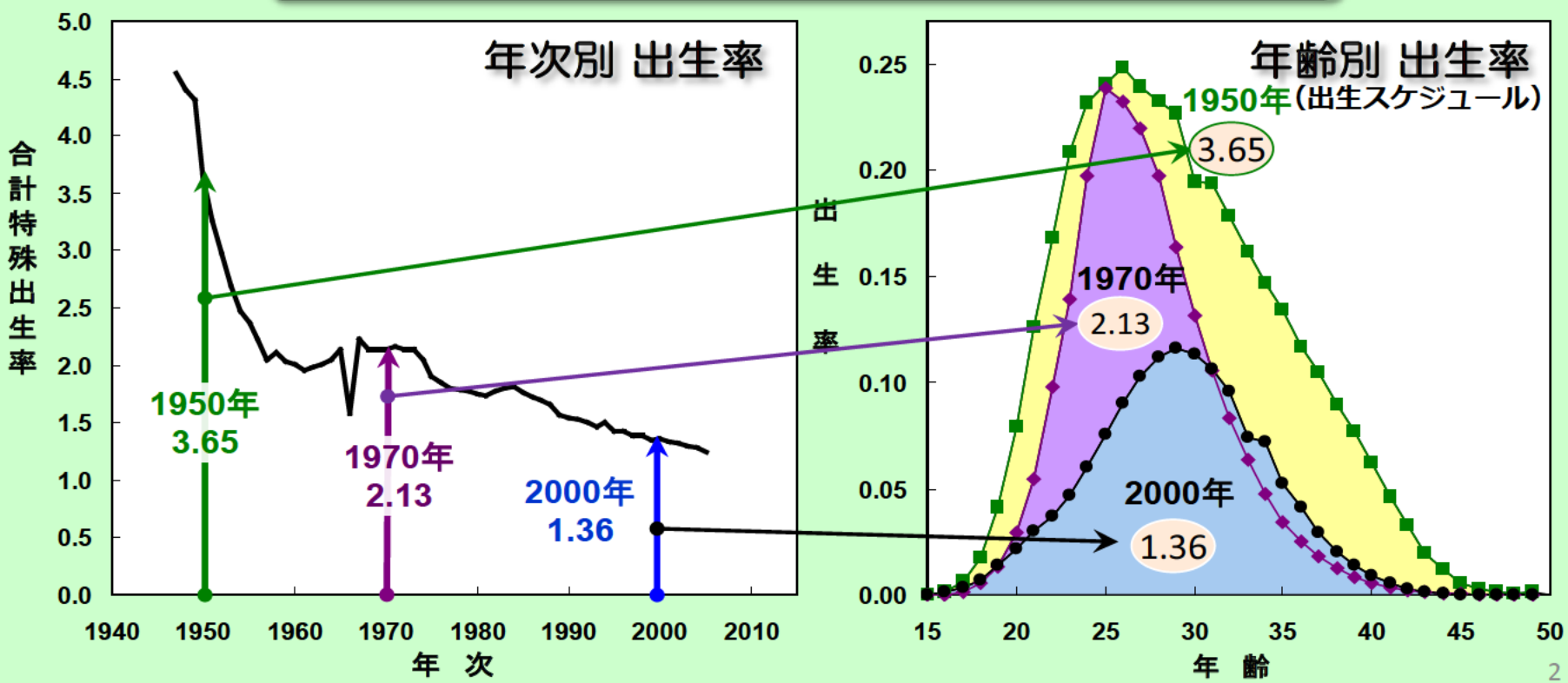
合計特殊出生率と年齢別出生率（出生スケジュール）

合計特殊出生率とは、

- ある年次に観察された女性の **年齢別出生率** を、生涯にわたって合計した数値.
- それは，女性がその年齢別出生率にしたがって子どもを生んだ場合の 生涯の出生子ども数 と解釈できる.
- 年齢別出生率は、出生スケジュール とも呼ばれ、(女性の)ライフコースを反映する。

下図右： 1950年頃までの日本女性の50歳までの人生は、妊娠・出産・子育てに終始
→ 1970年頃までに30歳代、10代後半は妊娠・出産から解放　→ その後、20歳代も妊娠・出産離れ ＝ 少子化

年次別 合計特殊出生率 と 年齢別 出生率



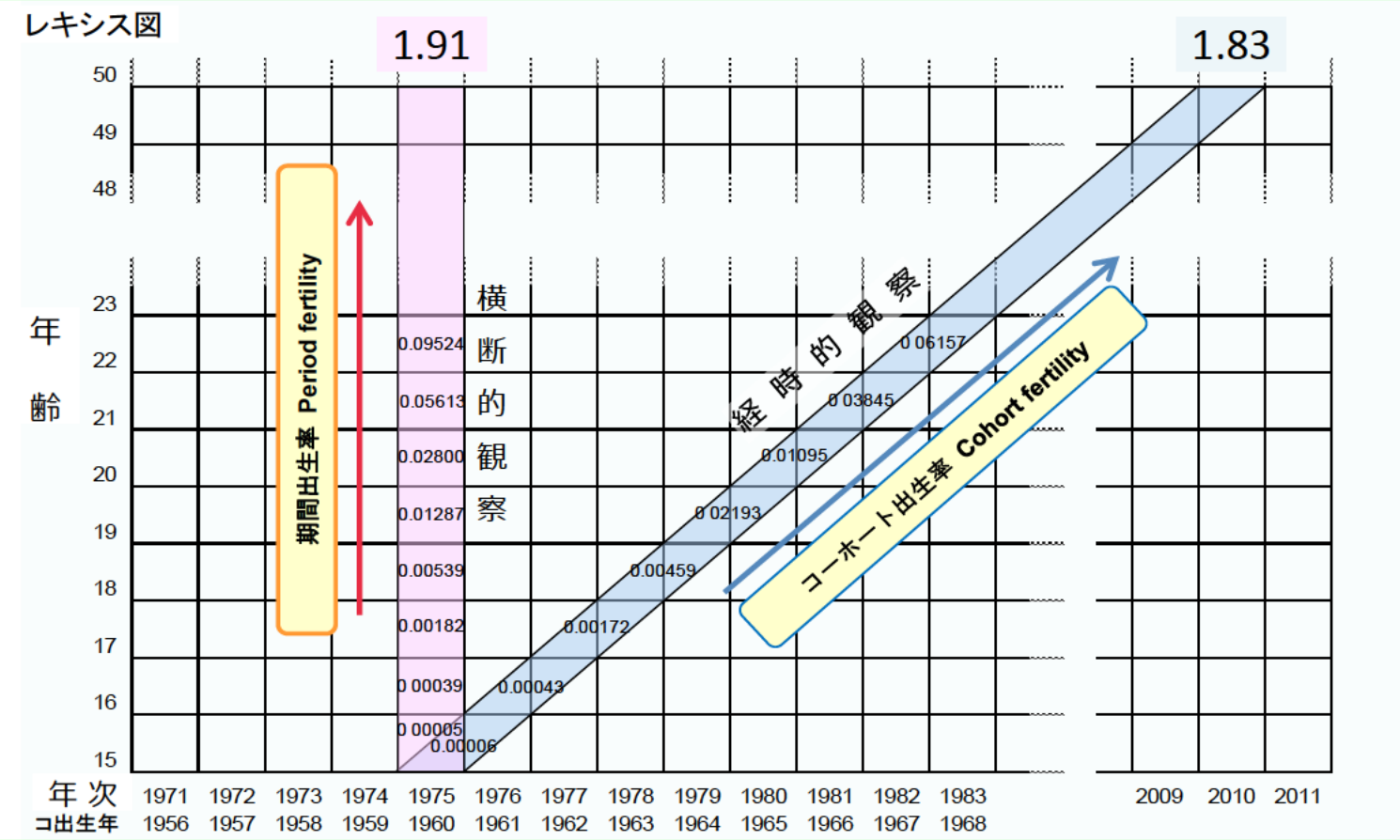
２種類の出生スケジュールと合計特殊出生率

・ 出生スケジュールおよび合計特殊出生率の観察軸には２種類ある。→ **年次(期間)** 合計特殊出生率 vs **コーホート** 合計特殊出生率

年次別の
年齢別出生率

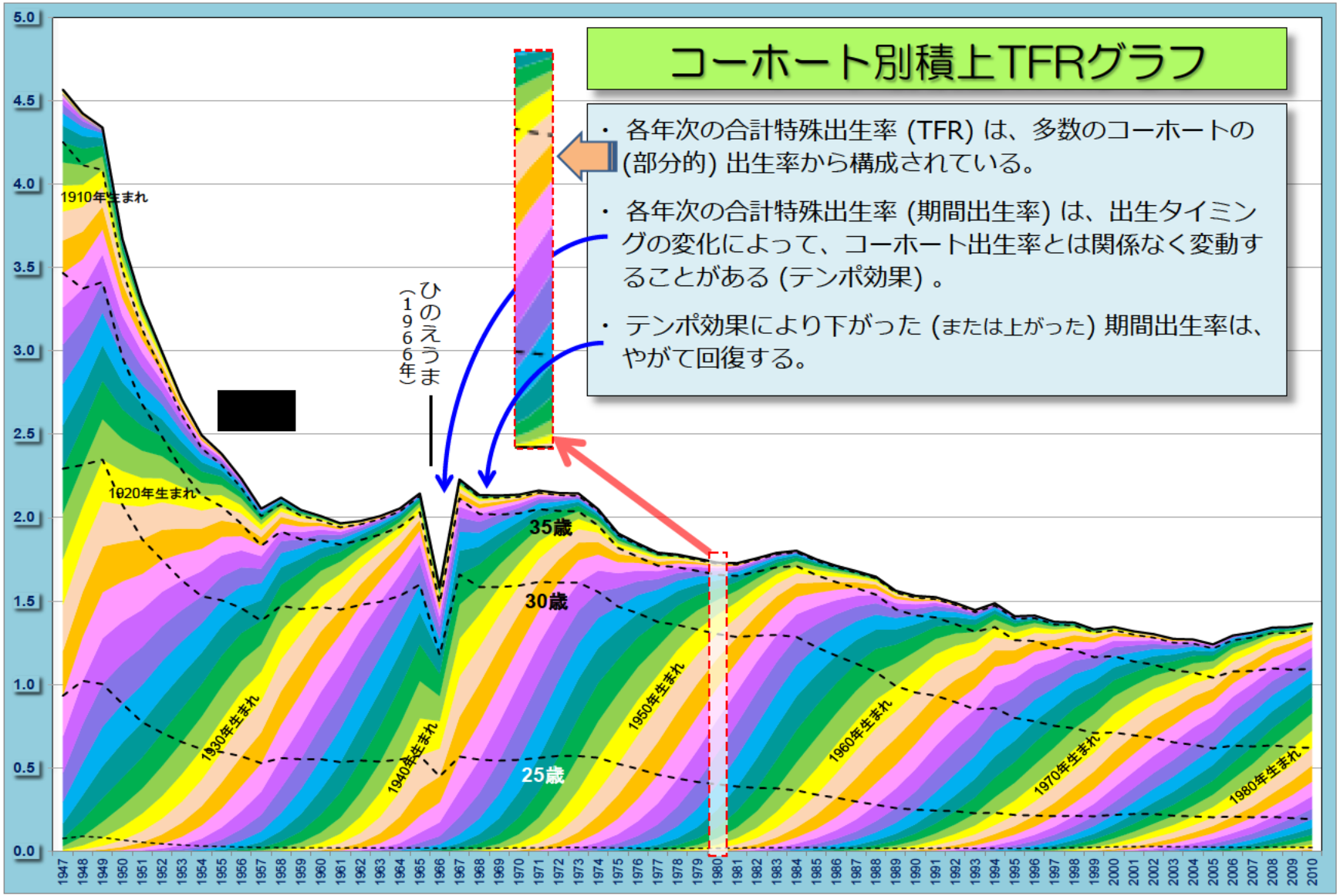
組み換え可

コーホート別の
年齢別出生率

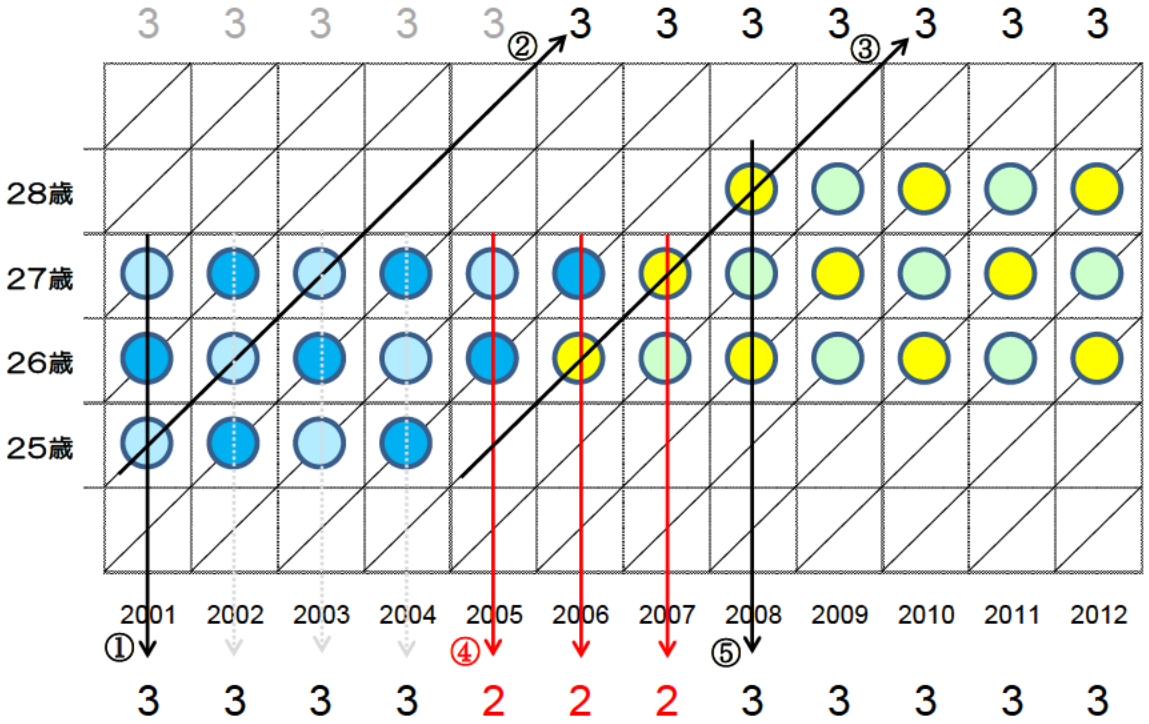


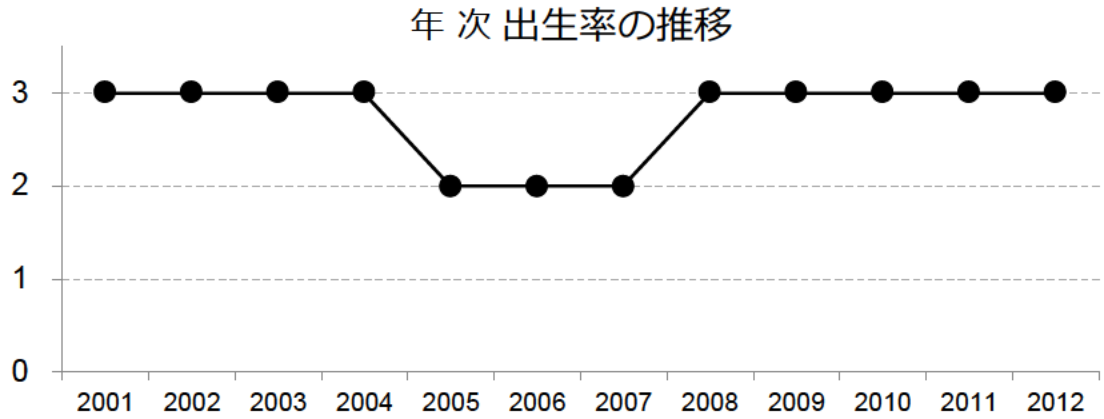
年次(期間)出生率の成り立ち

・ 各年次の合計特殊出生率は、必ずしもライフコース的整合性のない多数のコーホートの出生率から構成されている。



“晚産化” の 年次(期間)出生率に対する効果





“晚産化” の実験

① 年 次 2001年の出生数は 3人

② コーホート[2001年25歳]の生涯の出生数は 3 人

※この例ではすべてのコーホートの生涯出生数は 3人

③ コーホート[2005年25歳]が 1 年、晚産化（しかし生涯の出生数は 3人）

④すると 年 次 2005年の出生数は 2人に減少！

⑤ コーホートの晚産化が止まるとピリオドの出生数が 3人に回復。

コーホート出生率が安定していても、

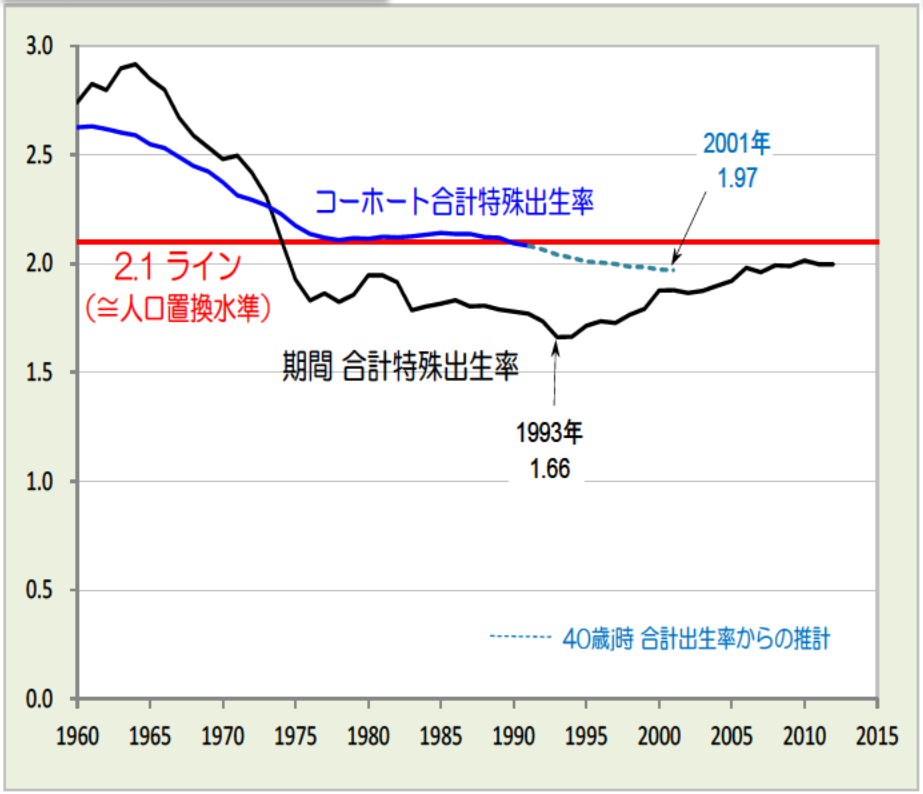
「 晚産化 」が起こると

年次の出生率は低下する。

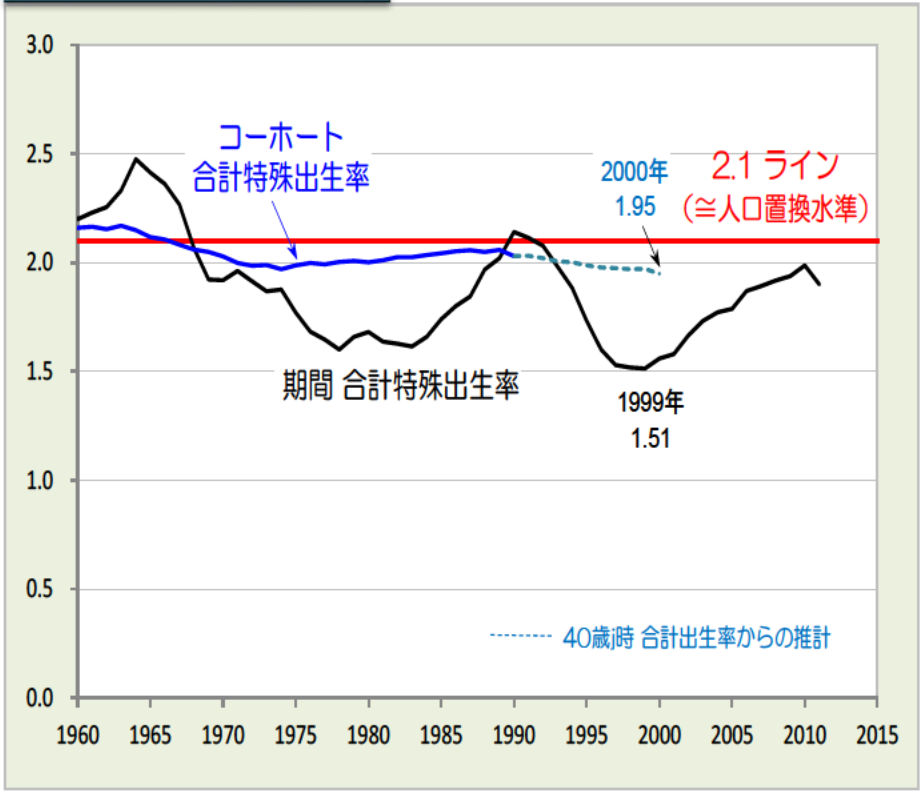
年次的に観察される出生率の注意点

フランスやスウェーデンは、施策の充実等によって少子化の状態（人口置換水準下の出生率）から脱し、出生率を回復させた国の例として取り上げられることがある。しかし、これらの国でみられた年次的な出生率（期間合計特殊出生率）の低下は、主に出生年齢の遅延にともなう効果（テンポ効果）によるもので、その背景にある実質的な出生力（コーホート合計特殊出生率 ≅ 生涯の平均出生子ども数）はもともと人口置換水準付近で推移していた。したがって、近年の出生率回復はこのテンポ効果が弱まったことが原因であり、人々の持つ実質的な子ども数が増加したわけではない。

フランス



スウェーデン



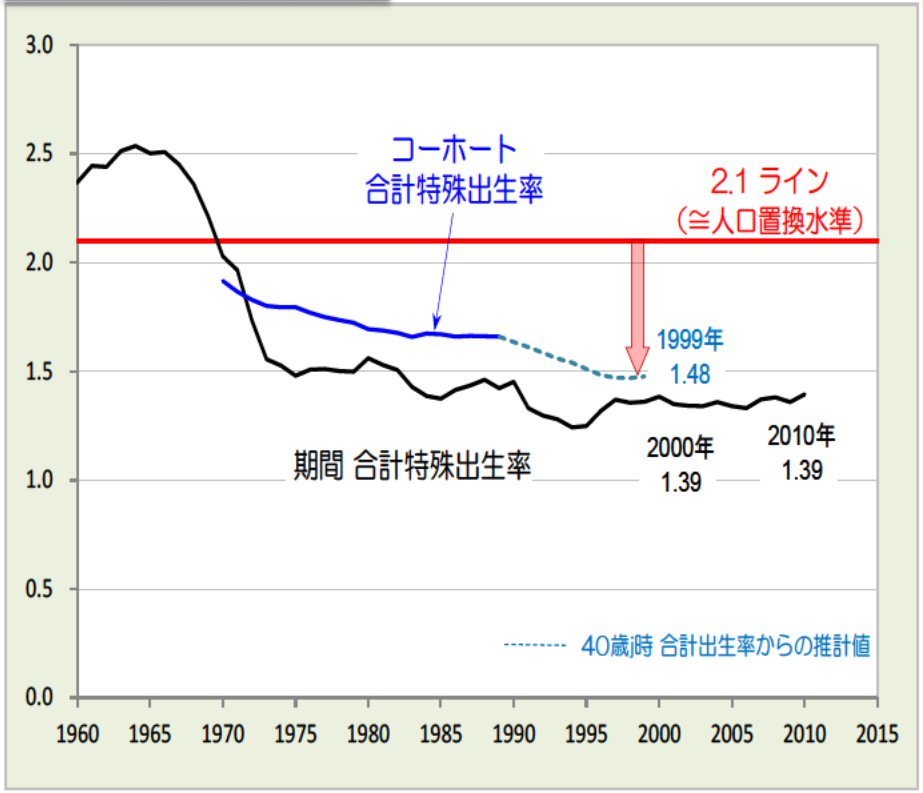
資料：The Human Fertility Database (http://www.humanfertility.org), 取得年月日：2014/12/17 より作成.

年次的に観察される出生率の注意点

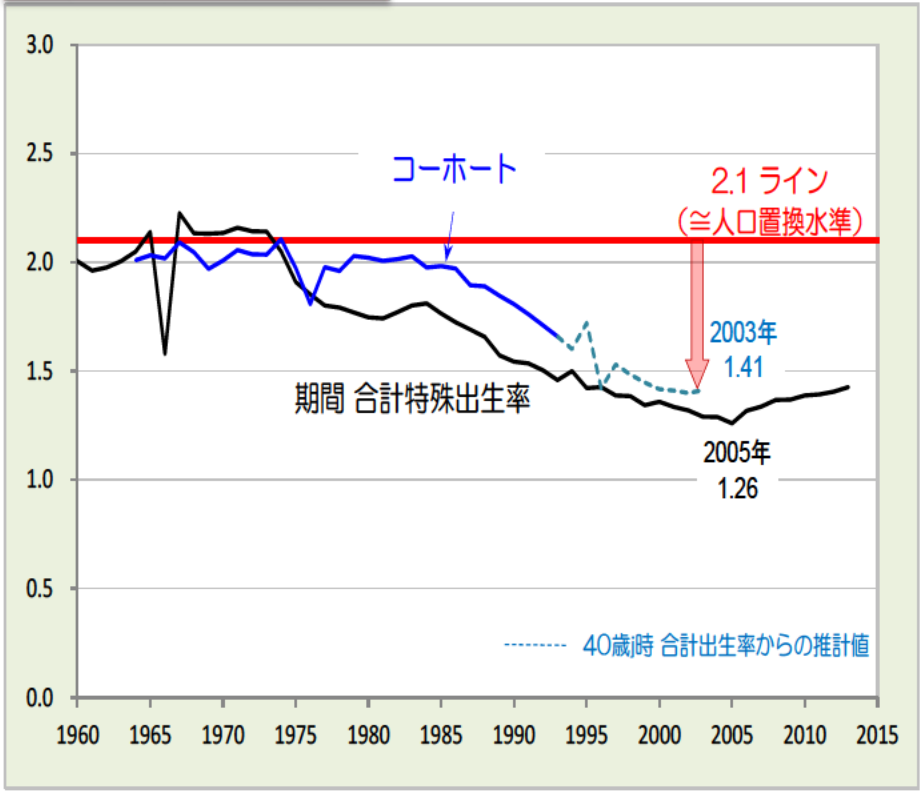
これに対して、ドイツ や 日本の出生率低下（下図）は、かなりの部分が実質的な出生力（コーホート合計特殊出生率）の低下に起因しており、今後、少子化が解消するためには（出生率が人口置換水準へ復帰するためには）、フランスやスウェーデンとは異なる特段の努力が必要となる。

★ 少子化を正しく捉えるには、指標の背後にある "実質" を読み取る必要がある。
→ 少子化に正しく対処するには、指標の示す出生の "量" ではなく、"質" に着目する必要がある。

ドイツ



日　本



資料：The Human Fertility Database (http://www.humanfertility.org), 取得年月日：2014/12/17 より作成.